

原 著

栃木県における牛ウイルス性下痢ウイルスの分子系統樹を
利用した疫学解析岩根浄子[†] 深井克彦 田島和彦

栃木県県央家畜保健衛生所（〒321-0905 宇都宮市平出工業団地6-8）

（2008年2月20日受付・2008年10月14日受理）

要 約

1989～2007年に栃木県で分離された牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）63株は、E2遺伝子327bpにおける分子系統樹解析により、21株が1a型、27株が1b型、11株が1c型、4株が2a型に分類された。また、BVDVが分離された牛の飼養農家が利用していた公共牧場に着目したE2遺伝子663bpにおける分子系統樹では、99.0～100%の高い相同性で利用公共牧場別に分類された。このことから、公共牧場が県内におけるBVDVの主要な感染経路の一つであったことが示唆された。本県において実施している放牧予定牛を対象としたBVDV検査は、持続感染牛が公共牧場に放牧されることを阻止し、主要な感染経路を遮断するきわめて有効なBVDVのまん延防止対策であることが確認された。

——キーワード：牛ウイルス性下痢ウイルス、疫学解析、E2遺伝子、分子系統樹、公共牧場。

----- 日獣会誌 62, 371～375 (2009)

[†] 連絡責任者：岩根浄子（栃木県県北食肉衛生検査所）

〒324-0063 大田原市町島66-2 ☎0287-22-5565 FAX0287-22-8923 E-mail : iwanek01@pref.tochigi.lg.jp